

2年生だより

歯学科2年 小 俣 玲 実

2年生になり4ヶ月が経とうとしています。もう4ヶ月と思う反面、まだ4ヶ月かと思ってしまうのも本心です。この4ヶ月間、私がどのように学校生活を送ってきたのかを振り返ってみたいと思います。

2年生のみんなとも出会ってから1年ちょっとが経ち、徐々に仲が深まってきたなと感じます。2年生になってからは、ほとんどの講義が同じ一つの教室で行われるので、1年生のときよりも休み時間などでみんなと話すことが増え、休み時間は皆にぎやかに過ごしています。2年生に進級した4月の頃は、五十嵐キャンパスから旭町キャンパスへとキャンパスが変わり、1年生の頃とはまったく違った病院を感じさせる雰囲気戸惑いを感じました。また、ほぼ毎日1限から授業が始まるようになり、朝から学校へ行くことが少なかった1年生の生活に慣れていたこともあったか、最初のころは辛く感じることもありましたが、しかし、先輩方が緑着を着て臨床実習へ向かう姿や沢山の荷物を持って実習に急ぐ姿を見て、「2年生の忙しさなんて先輩たちに比べたらまだまだだな」と気持ちを奮い立たせ頑張ることができています。友だちと息抜きをしながら次第にこの生活にも慣れ、日々楽しみながら学校生活を送っています。

勉強面では1年次の教養科目を終え、専門科目に入り人体解剖学や歯科理工学などの基礎系分野を学んでいます。今までの勉強よりも学ぶことが多く、覚えることも沢山あるので大変ですが、どの講義も今後に関わる内容であることを思うとしっかり勉強しなきゃと感じます。また、骨学の授業では、実際に骨を観察する実習があり、なかなか見ることができない骨の構造を学ぶことができました。その他の授業でも難しい内容のなかに専門科目ならではの面白さを感じることも多くあります。早期臨床実習もやらせていただきました。

1年生の前期にも行いましたが、そのときとは違い、実際に患者様にバキュームをやらせていただいたり、模型で歯を削らせていただいたりなど、より実際に行う治療を体験することができました。また、治療しているところを見学させていただいているときに「これ授業で習ったな」と思うことも少しあり、勉強する意味を再認識でき勉強に対するモチベーションをあげる機会にもなりました。この原稿を書いている今、テスト期間まったただ中なので、皆試験勉強に追われ、2年生には妙な緊張感が漂っています。わからない箇所を友だち同士でお互いに聞き合いながら勉強できる環境となっているので、私は友だちに助けをもらいながらテストをこなしていくことができている。残り2つのテストを乗り越え楽しい夏休みを迎えようと思います。

部活動では、私はバスケットボール部に所属しており、マネージャーとして楽しく参加しています。現在は8月に鹿児島で行われるデンタルの大会に向け、暑い体育館の中で練習に励んでいます。とても面倒みよく接してくれる先輩ばかりで勉強面はもちろんのこと、日々の生活のことまで相談に乗っていただいたり、経験豊富なお話をさせていただいたりなどバスケ部に入部してよかったなと思います。また、今年も海で遊んだり、浜辺でバーベキューや花火をしたりとバスケ以外にも楽しい行事が沢山あり、充実した学生生活を満喫しています。

2年生になってからの4ヶ月間は大変に感じることもありましたが、勉強だけでなく楽しく遊ぶこともできました。新潟での一人暮らしも2年目となり、冬の雪の多さには驚きましたが、だんだんと新潟の生活に慣れてきました。学生生活もまだまだこれから。多くのことを経験し、勉学に励みながら楽しく貴重な日々を過ごしていきたいと思っています。

歯学部生の今

口腔生命福祉学科2年 小川千尋

大学生になって1年半がすぎようとしています。1年生のころは五十嵐キャンパスで教養科目を勉強しました。2年生になってだんだん専門的な講義がはじまりました。私は高校生まで文系だったので、正直今自分が歯科をはじめとする医療系の勉強をしていることに驚いています。しかし、一つ一つの講義や実習で新しい知識が蓄えられている気がして新鮮でとても充実した毎日を送っています。

2年生になり、PBLが始まりました。PBLとは少人数グループでの討論により問題を解決していく学習方法です。また、PBLは具体的な臨床症例をシナリオとしているため、歯科に初心者な私にとっては興味が持ちやすいような気がします。PBLのあとに講義で自分が勉強したことが出てくるとわかりやすく、また次のシナリオもがんばろうと思えます。PBLは同じグループのメンバーと協力して問題を解決していくので一人で勉強している気がせず、みんなが頑張っているから私も負けずに頑張ろうと思います。これからもメンバーと切磋琢磨してPBLに取り組んでいきたいです。

実習では保健所、医療センター、ばんだいさくら園などさまざまな施設の見学もさせていただきました。特に印象に残っているのは医療センターの歯科衛生士の仕事内容です。私は今まで歯科衛生士は歯科医師の隣で補助や手伝いをしているイメージでした。しかし、医療センターの歯科衛生士は入院している患者様も来るため、その患者様に使える薬も限られてくる場合もあり血液検査の結果も一目でわからないといけなかったり、車椅子の患者様も来るため、かがみながら治療をするので時間もかかったりすると伺いました。また、口腔ケアは人の生死に関わることもあることを初めて知りました。このことは私にとってとても衝



撃的なことでした。一般的に考えると口腔の病気は全身とつながりがそこまでないと思っていましたが、口腔ケアを行うことにより健康でいれたり、病気の予防や症状を良くしたりできると聞き、歯科衛生士は人の命にたずさわることができる素晴らしい職業だと感じました。また、歯科衛生士の仕事は独立しているということもわかり、今までのイメージを良い意味で壊されました。さらに、この見学では歯科衛生士は専門的な知識や技術、コミュニケーション能力はもちろんのこと、オールマイティーな知識をもっている人が求められていると思いました。今勉強している解剖学や生理学も歯科に関連があることがわかり、勉強に対するモチベーションが高まりました。

歯科衛生士概論では、診療所や行政で働く歯科衛生士や社会福祉士の仕事を直接聞けるという貴重な経験をさせてもらいました。この講義では自分が想像していた以上にその職業の実態や業務を知ることができ、講義後は毎回自分の将来を考えていました。将来の選択の幅は思っていたよりも広く驚きましたが、これからの講義や実習で自分がやりたいことや目指すものを明確にしていきたいと思います。

後期からはマネキンを使った、歯科衛生士の本格的な実習がはじまります。私は不器用で少し不

安もありますが、先生に技術は何回も練習すれば上手になるとアドバイスをもらって少し楽しみになってきました。

今、大学2年生の半分が終わろうとしています。

この1年半を振り返ってみるととてもあっという間です。卒業はまだ先のことですが、大学生活も楽しかった!! と思えるようにこれからも充実した楽しい毎日を送っていきたいです。



3年生だより

歯学科3年 鈴木 兼一郎

新潟大学歯学部に入學して今年で3年目になりました。これから、その3年の学生生活の様子について書きたいと思います。専門科目の講義を受講し始めてから1年が経ち、4月から2年目の専門科目の講義が始まったわけですが、旭町キャンパスでの授業にも慣れたせいか、やっと自分なりの勉強のリズムが安定してきたかなと思っています。講義関連のことについて思い返してみると、解剖実習が始まり精神的、肉体的に嫌でも成長させられたことが印象に残っています。実習の前には予習を行い、数少ない貴重な経験を活かせるよう一生懸命勉強しました。できればもっと長期間にわたり解剖実習を行いたかったなと個人的には思いますが。しかし、今年は去年に比べて真面目に勉強していたと思います。去年は慣れない環境のせいか、なかなか授業についていけないこともありましたが、今年は少なくとも解剖においては、よい勉強ができていると思います。ここで学んだ知識は将来、臨床の場に出たときに役に立つと思いますし、逆にこの知識がなければその場に出る資格はないと思います。今、基礎医学を学んでいますが、臨床のことを意識して勉強し有意義な知識を身に付けていきたいです。ただ、3年の前期は解剖に力をいれすぎて、他の科目に対する勉強が少し疎かになってしまったのも事実かなと思っています。もう解剖実習は終わっているので、夏休みを利用して他の科目も勉強したいと思います。

普段の私生活においては、旭町の生活にも慣れ、安定してきたかなと思います。新潟に来てから3年目となり、新潟の気候にももう慣れました。冬は寒いのに夏は暑いという、新潟出身の人たちには申し訳ないですが、とても住みにくい環境です。雪国なので、夏は涼しいのかと思っていましたが、ものすごく暑いです。この時期は暑いからか、なかなか勉強に集中できないので毎年苦勞していま

す。また、新潟出身の方たちは皆、新潟市では冬はあまり雪が降らないといっていますが、この2年間は大量に降っています。歩道を歩けないくらいの雪が降っても降らないと言い張るところには感心してしまいます。去年は雪が歩道に積もって買い物に行けないので、白米とふりかけだけで過ごすという期間がありました。今年はこんな思いはしたくないので、切実に雪が降らないことを祈るばかりです。今雪が降ってくればすごくうれしいのですが。

最後に、卒業まであと3年半ありますが今後の大学生活について書きたいと思います。勉強については自分のリズムを作って、予習復習を行い講義には毎回出席するように努力したいと思います。また、先生の講義を聴くという機会も学生の間でしかできないことだと思うので、真剣に授業に臨み、知識を自分のものにして、卒業までに蓄えていきたいと思います。3年の後期からは基礎医学以外に口腔組織に関する講義も始まるので、すごく楽しみです。臨床に直結してくることも習うと思うので、しっかり勉強したいです。勉強以外の面においては、先輩としての振る舞いを意識したいです。これから学年が上がり、後輩が増えていくこととなります。なので、先輩としての自覚、責任感をしっかりもって後輩たちのお手本になるような振る舞いをしていきたいと思います。あと、個人的なことになりますが、料理の腕を上達させたいです。今自分は一人暮らしで自炊をしていますが、毎日チャーハンしか食べていないので、というかチャーハンしか作れないので、おいしい料理を作れるようになりたいです。達成できないとは思いますが…。とりあえず、勉強、先輩としての意識に関してはしっかり目標を達成できるようにしていきたいです。そして余裕があれば料理の腕前も上達させたいです。

歯学生の今

口腔生命福祉学科3年 古川 いつか

私が口腔生命福祉学科に入学して3年半が経ちました。大学生生活もう折り返し地点を過ぎてしまい、将来のことを考えていかなければならない時期となりました。また、3年生になり、本格的に社会福祉士の勉強が始まりました。2年次は歯科の勉強が主だったので、新しい分野を学び始めることにとてもわくわくしていました。前期の始めのほうの授業の早期援助技術演習で、特別養護老人ホームや障害者交流センター、障害者リハビリテーションセンター、児童相談所など、実際に社会福祉士が活躍する場を見学しに行きました。今まで社会福祉士の仕事について具体的なイメージがつかめませんでした。実際の現場を目で見たり体感することで、これから社会福祉を学ぶ意欲が高まり、将来の視野を広げることができ、とても自分の身になる見学となりました。また、私たちの先輩で新潟で生活保護の仕事をしている方のお話を聞く機会もありました。自分たちと歳が近い方のお話を聞くことで社会福祉というものをより身近に感じることができたので、とても参考になりました。

また歯科の方の授業で、幼稚園や中学校に歯科保健指導に行ったことが一番印象に残っています。私は幼稚園班で劇を通して園児たちに歯磨きや仕上げ磨きの大切さなどを伝えてきました。園児や保護者のみなさん、先生方の前で役を演じるのはとても緊張しましたが、楽しみながら歯科保健指導を行えたと思います。この歯科保健指導を行うまで、たくさんの時間をかけて計画を立てたり、劇の練習をしたり大変でしたが、園児たちが楽しそうに真剣に劇をみている姿を見て、とても達成感を感じることができました。しかし、実際には人に自分の言葉で説明したり指導することはやはり難しく、戸惑うことも多くてまだまだ自分の力が足りないと感じました。

私は全学のアカペラサークル“MUSE”にも所



属しています。MUSEは年々人数が増え続け、今やサークル員は200人を超え、グループ数は50以上となり新大のサークルの中でも規模がかなり大きいです。私が所属しているグループは、前期では黎明祭やサークルの新歓ライブ、ライブハウスなどで歌いました。2年生の時には、ふるさと村や白根、古町や金沢などでも歌いました。グループの中で旭町キャンパスなのは私だけで、五十嵐キャンパスのメンバーとなかなか日程が合わなく、メンバーのみんなにはたくさん迷惑をかけてしまっています。しかし、みんなで歌うのはとても楽しく、お客さんが楽しそうに笑顔で聴いてくださっていると自分も嬉しくなります。歌を通して人を元気づけたり、その人の心に残るようなステージにできたらいいなと思いながら活動しています。この学科は3年の後期からが大変だと聞いていますが、時間を有効活用してみんなで歌うことの楽しさをかみしめながら活動していきたいと思っています。

振り返ってみると前期はあっという間だったなあと思います。ぼーっとしていると時間は過ぎていってしまうので、後期はもっと1日1日を大切にして実習や講義に取り組んでいけたらいいなと思います。

4年生だより

歯学科4年 永塚千鶴

こんにちは。歯学科4年生の永塚千鶴と申します。はじめに私はじゃんけんがとても弱いです。去年歯学祭実行委員長決めじゃんけんで2回も決勝戦に残ったり、実習のゴミ捨てじゃんけんによく負けたり。なのでクラスで“歯学部ニュースを書くじゃんけん”をすることになった時に「あーまた今回も負ける気がするー」と思ったらやはり負けてしまいました。一ヶ月も猶予があったのにこういうものは期限ぎりぎりにならないと書き始めないものですね。

では前置きはこのへんでおわりにして、4年生がどういうことをしているのか？と私の日々の生活について紹介をしたいと思います。

4年生になると、当然のことですがもう学ぶことは歯のことばかりになり、週に2回の実習が始まります。そして3年生までは、今日は午後がない！とか、今日は2限からだ！なんて日が週に何回かあったりしてまだまだ大学生気分を味わえたのですが、4年生にもなるとそんなことは一切なくなります。よって、平日に飲みに行くなどということはほぼなくなり、そんな一週間に慣れるのに4月や5月は苦労しました。一言で“実習”といっても4年生より下の学年や、歯学部ではない方にとっては、なんのこともかさっぱりわからないと思うので簡単に説明します……一般的な言葉で言い換えると、“銀歯や入れ歯をつくる”という実習をしました。一見簡単そうに聞こえるかもしれませんが、これを前期4、5、6、7月の週2回の実習日すべてを使っても作り終わらない、というところの実習が私たち4年生にとってはどんなに大変かがわかっていただけでしょうか……。しかも私は、仲の良い高校の友達には私の知る中で一番の不器用などと言われるほど不器用なので、この実習では本当に苦労しました。どんどん先のステップに進む同級生を横目にまだ私は

これを作ってるのか、とか何度も何度も先生に見せても一向にOKをもらえずに突き返されたり、実習時間では足りなくて、夜な夜な家で歯肉形成をしたり。一時期は、私は歯医者にはならない方がいいかな、いまから就活しようかな、学校やめようかな、ちょっと休学しようかななどと本当にかなり悩んだ時期もありました。でもこうやって無事前期があと一週間で終わるというところまできたので内心かなりほっとしています。なので、これからこの実習を迎える後輩たち、悩んだらぜひ私に相談しにきてください(笑)。

そして、わたしが前期を無事終了することができるのは、友達が存在がとても大きかったように思います。私が普段一緒にいるグループの子たちは、幸い私と同様の悩みを持ってるのが何人もいたので、休み時間に愚痴をお互い言い合ったり飲みに行ったりしてみんなでなんとか前期の実習をやり遂げることができました。といってもまだまだ4年生後期、5年生、6年生と残っていますので、これからもこの友達たちとなんとかお互い励まし合ったり、遊びに行ったりして息抜きをしながら乗り越えたいなと思っています。この仲間に出会えたことに本当に感謝した前期でもありました。(なんて恥ずかしくて絶対口に出しては言えないので、こっそりここに書いておきます。)

さて、4年生といえば様々な活動の幹部となる学年でもあります。代表的なのはやはり部活でしょうか。私もバレーボール部の部長をしています。この学年になってはじめて、先輩の偉大さを実感しました。日々の部活を円滑に進めることはもちろんのこと、デンタルの準備、飲み会の設置、お金の管理……バレー部は私の学年が1人しかいないということもあり、正直最初はとてもしんどかったです。しかしまたまた幸いにもバレー部の後輩たちは本当にいい子ばかりで、みんなにはた

くさん救われました。バレー部は少ないからこそ学年関係なく全員がとても仲が良く本当に楽しい！と思える部活だなあと自負しています(笑)。デンタルまであと少し。バレー部はデンタルが終わるとオフになるので今がまさに一番の頑張り時です。去年の4位よりもいい成績を残せるよう精一杯頑張りたいです。

4年生はいままでと違って・大学生といった学生生活とは全く違いました。そしてこの先は今までよりもさらに大変なことが待っているだろうと思います。あとから思い出した時に忙しかったなあではなく、充実していたなあと思えるように部活に学校にそして遊びに、仲間との出会いに感謝しながらこれからも全力投球していきたいです。



4年生の学生生活について

口腔生命福祉学科4年 星野美帆

歯学部口腔生命福祉学科に入学して気づけばもう4年目、最高学年になりました。4年生では講義やPBLに加えて医歯学総合病院の各診療室で行う病院実習、学外の福祉施設で1ヶ月間行う福祉実習、各自でテーマを決めて担当の先生に指導して頂きながら特論と呼ばれる論文形式の報告書の作成、また歯科衛生士と社会福祉士の国家試験の勉強等を行っています。

病院実習では、4月から夏休みを挟んで11月の下旬まで半年と少しの期間、各診療室に基本的に1・2週のサイクルで15科の診療室をまわり診療補助の実習を行っています。ほとんどの診療室は3年生の秋から冬にかけての実習で診療の様子や器材の場所を見てきているので大丈夫！……もちろんそんな訳はなく次の診療室に交代する際には引き継ぎ、予習が大切になります。そして実際に補助を行うのですが、とても緊張します。先生方、看護師・歯科衛生士の方々はお優しいですが実際の患者様への診療ということもありどの診療室でも必ず緊張してしまい、そういう時ほどミスが多くなっている気がします。そのような時には、経験を重ねて行けば緊張によりあがってしまうこともよくなっていくよという励ましの言葉を頂きながら頑張っています。長いと思っていた病院実習も気が付けば残り半分を切るころまで来ました。学生として経験を積むことができる残りの時間を大切に、今まで以上に積極的に実習に積極的に取り組んでいきたいと思います。

福祉実習は学外の児童相談所や特別養護老人ホーム、リハビリテーションセンター等の福祉施設で行われます。私は児童相談所と市の生活福祉



課等に実習に行かせていただくこととなっています。実習期間が夏休み明けのためまだ実習内容についてはご紹介できませんが、現在は実習計画書を作成しています。これは実習のテーマ、課題や事前学習等についての項目があります。この計画書を作成しながら施設や制度についての事前学習を行い、夏休み明け初日からの福祉実習に備え、有意義な実習にしたいと思っています。

実習の他にも特論のための資料検索、講義のレポート、PBLの学習課題等がありそれらを何とかこなしています。そのような中で7月の中旬に初めての歯科衛生士の国家試験模試がありました。私は国試対策まで手を回すことができず、各診療室をまわる前の事前学習と臨床実習で経験した内容以外は、ほとんど2・3年生の講義の記憶に頼ることとなりました。そのため、自己採点では1回目らしい結果となっていました。もうすぐ夏休みとなり時間に余裕ができるので歯科衛生士、社会福祉士ともに国試の勉強も始めていきたいと思っています。そして、勉強だけでなく進路の決定や就職活動等もあり最後まで忙しくなるとは思いますが、残り少ない学生生活を悔いを残さないように過ごしていきたいと思っています。

5年目の学生生活

歯学科5年 西宮 結

「もう、5年生か〜」なんて最近よくクラスメイトが言っているのを耳にします。5年生ともなると、新潟での生活にも慣れてきて、顔なじみばかりの教室がとても落ち着く今日この頃です。自分が1年生の頃、5年生の先輩は本当にとっても大きく見えたのを覚えています。そう考えると恐ろしくもあり、またしっかりしなくちゃ!! と身が引き締まる思いです。

5年生は、今までの4年間とはガラッと意識や環境が変わったような気がします。具体的な授業や実習を例に挙げてみます。まずPBLは、少人数のグループで討論を行い、問題を解決していく学習方法で、何を与えられるわけではなく自主的に学習するという、やるもやらないも自分次第なものです。毎回シナリオが配られてそれに沿って討論していくのですが、自分の考えもしない意見が他の人から出てくるのがとても面白いです。次に、総合模型実習は患者様一人の治療計画を立ててそれに沿って実習していくという、今までの実習の総まとめのようなものです。これは、臨床に上がる前の最後の実習です。みんな気を引き締めて頑張っていますし、休み時間も休まないでやっている人もいます。実習前は自分で予習して各自進めていくのですが、4年生までの実習で先生が重要だと何度も言っていたことがコダマのように思い出されます。そして一番はポリクリです。これは臨床予備実習のことですが、病院に出る前の準備の実習です。いろいろな科を順番に回っていくのですが、どの科も本当に興味深くてたくさんのことを学ばせてもらっています。ポリクリは緊張感もあり、自分の未熟さに気づくことも多々ありますが、とても楽しいです。私たちはまだまだ何もできないに等しい学生ですが、一歩病院に出れば患者様からしたら、同じ先生として扱われることもあると思います。残り少ないポリクリですが、吸収できることは全部吸収して臨床実習に臨

めるよう、頑張っていきたいです。

私たちの学年は現在37名です。入学当初から個性溢れるメンバーだなあ〜とっていましたが、5年目ともなるとその個性により磨きがかかってきている気がします(笑)。けれど私はそんなみんなが大好きです。一緒にいればいるほど、魅力が発見できてどんどん好きになっていく気がします。私たちのクラスは本当に仲が良くて、喧嘩もなくとっても穏やかで、笑い声が飛び交う、まさに理想のクラスです。次の日学校休みだー!ともなると、ひとまずみんなで朝まで飲んでいたり、休日はみんなで遠出してみたり。それが、ほんとに楽しいんです。ハメをはすずときも必要ですから! ONとOFF、その切り替えができればいいんです(笑)。ただほどほどに……。

次に部活についてですが、5年生ではもう引退している人もいますが、今もバリバリ現役として頑張っている人もいます。私は弓道部なのですが、今年も後輩がたくさん入ってくれて本当にうれしいです。部活に顔を出して、後輩たちの頑張っている姿を見ると、なんだかとても「ほっこり」します。また、実習などでたくさんの部活のOB・OGの先生方や先輩方にお世話になっています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。部活のこういった縦や横のつながりというのは、ずっと大切にしていきたいものです。私も先輩方がしてくれたように後輩にできる限りのことをしてあげたいな、と思います。

最後になりますが、私たちは毎日の学生生活の中で、本当にたくさんの人に助けられています。きっと5年生みんなが感じていることだと思えます。そんな人たちにいつか恩返しができるように……これからもっと大変な日々が待っていると思いますが、仲間と共に今日からまた切磋琢磨して頑張っていきたいです。

学生技工室から

歯学科6年 小 関 麻 奈

同じお金を払って学生に治療を受ける、正直私は絶対に嫌です。歯科医師過剰がこれだけ叫ばれ、最上級の治療も選択できるいま、なぜこの歯科総合診療室（そして学生）へ通っていただけるのか。その理由を考えた時、単に“自分たちの実習”という考えでは臨む姿勢が間違っていると気付かされます。周りの環境全てに対する感謝、これを今、要所所で感じています。と言っても軌道に乗るまでは正直感謝などと口にする余裕もなく、消化不良と感じたことのない精神的疲労が残る毎日。そんなこんな怒涛の10ヶ月間に、少しだけお付き合い下さい。

臨床実習のオリエンテーションの最後で配られた細長い紙、それは患者様の引き継ぎリストでした。「ついに始まる」という思いで、不安、興奮、焦り……様々な感情が入り混じりながら、先輩たちのいる学生技工室へ走ったことを覚えています。「一さんはこの日、それと一さんはこの日、あと一さんは……。明日試問に行こうね、まあ全部予定簿とレポートは出してあるから大丈夫。」こちらの状況は全く大丈夫ではありませんでした。診療にあたり準備すべきこと、ふまなければならないステップ、診療内容についての予習……実際診させていただくにあたり当然必要なことですが、やるべきことのあまりの多さにその頃は目が回る思いでした。引き継ぎ期間の10月は、準備から片付けまで、右も左もわからずに先輩の後ろを付いて行く毎日。でもこの一ヶ月が終わったら本当に一人？ 不安で押し潰されそうでした。

実習が本格的に始まって最初の頃は何より月曜日が憂鬱。日曜日の夕方にちびまる子ちゃんの顔を見てお腹が痛くなる、こんな経験は私だけでしょうか。診療までの予習と準備、自分では完璧に仕上げたはずなのに、止まらない声と手の震え、大量の汗で頭は真っ白。そして悪循環開始です。



思うように診療が進まない、焦る、患者様を待たせている、またうまくいかない、ふと気付くと……3時間？ その頃はあまりのできなさに本当に自信を喪失していました。「お父さんに代わってくれる？」電話でそう言い始めたのもその頃です。それまでは実家に電話といえばいつも母。しかしこの臨床実習が始まってからは、歯科医師である父に朝から晩まで質問、相談のオンパレード。「3時間もかかったら普通もう来ないよ、感謝感謝。」確かに。その頃に聞いた父の約30年間分の失敗談や体験談はとても励みになりました。お父さんありがとう。

そんな私たち6年の帰る場所、それが学生技工室です。やるべきことが山積みで、施錠しにくる研修医の先生が一分でも遅れやしないかと願う今、定時に帰っていく後輩たちを少し羨ましく眺めています。しかしこんな毎日、一日中一緒にこもる43期のみんなとは結構濃密な毎日を過ごしています。日々各々の計画の中で行動しているこの実習、範囲も過去問もない無限の学習はかなり辛いものです。まして実際に患者様への対応となると、いくら本を開いても残るのは不安だけ。そんな時叫びます、「誰か最終印象とった人ー！」。時間が無いのは同じ状況でも、自分のことはそっちのけですぐ駆けつけてくれる、優しいんです。そして負のスパイラルに陥りがちな毎日、同じ気持

ちなのも技工室の仲間です。愚痴を言い合い、翌日朝早くても関係なく食べに飲みに歌いに……。クラスみんな、大好きです。

いつも毎日緑衣の左ポケットに入れている手帳。10ヶ月という短い期間でも、カバーが外れ、端はボロボロ、かなり年期が入ってきました。予定がびっしり書かれたこの手帳は、初めての診療、

FCK、抜歯……実習の全てが詰まっています。今では私の大切なものの一つです。患者様、先生方にも多くの迷惑と心配をかけながら、なんとか走っているこの臨床実習。残り2ヶ月半と期間は限られていますが、初心を忘れず、一日一日精一杯勉強させていただきたいと思います。



6月で総合診療室から移動になった根津さんを囲んで



6年生だより

歯学科6年 大田 篤

こんにちは。歯学部ニュースの原稿の執筆を引き受けておきながらすっかり忘れていて、締め切りもとっくに過ぎているのですがまだ間に合うようですので、今死ぬ気でPCに向き合っているところであります。

6年生だよりということですが、正直「気づいたら6年生になっていた」というところできて、自分たちが最高学年であることに若干の違和感を覚えます。5年生の10月から臨床実習が始まって、期末試験や春休みを挟むことなく（GWで少し休みがありました）ここまで来たからです。

僕たちの今について、とのことなのでまず臨床実習について。「マネキンとは違う」、これは散々先輩方からも先生方からも聞いてきたことですがやはり僕たちもそう感じました。マネキンと違って人は口を開け続けていると疲れます。マネキンと違って人には時間の都合というものがあります。マネキンと違って人には持病、体質というものがあります。マネキンと違って人は傷つけたら血が出ます。臨床実習が始まる前までは「そんなことわかってるよ」と思っていたのですが、実際はじまってみるとまったくわかっていなかったと痛感させられる毎日です。

ただ、僕も含め同級生は、それこそはじめは患者様との話もままならないほど緊張していましたが、最近は受付をしながら遠くから見ていると、おおむね打ち解けているように見えます。もちろん緊張感を失ってはいけませんが、必要以上に硬くならず人と接することができるようになってきたのではないのでしょうか。

さて、臨床実習のほかにも6年生には考えなくてはいけないことがたくさんあります。たとえば卒業後の研修先、ひいてはその後についてです。周りをうかがって見ると、口腔外科に残ってバリバリやっていこうと考えている人、何か武器を

身に着けたいけどその武器について選びあぐねている人、すぐ就職して早く開業したい人、研究の方面に進みたい人、自分が何がしたいのかさっぱりわからない人、様々なようです。いくつかその日の夕食とただ酒のために医局説明会にも参加させてもらいましたが、各科の先生方、それぞれとても楽しそうなのが印象的でした。結局のところどこへ行っても何をしてもそんなに変わらないのではないかと考えたりもします。

また、国家試験を控え、勉強もしなければなりません。ある過去問集はシリーズ全16巻セットでして、その一つ一つが凶器として十分成立する厚さを持っています。合間を見て各々問題集に取り組み始めていますが、なかなか進まないとの悲鳴ばかり聞こえてきます。私立の歯学部に通って早くから国試対策をしている友人の話を聞きますと焦ってきますが僕はとても開く気にはなれず今のところ枕として活躍してもらっています。

それ以外に関してもおおむね仲良く楽しくやっているのではないのでしょうか。そういえばある先生は「君たちの学年は仲が良すぎるのが玉に傷だ」と仰ってましたし。また、昨年あたりから国際交流関係のプログラムで外国からの留学生と一緒に触れ合ったりする機会も多くなってきました。台湾やタイなどから来た留学生と一緒に話したり酒を飲んだりして刺激を受けまして、私事で恐縮ですが、僕は今年の3月に2週間メキシコにいかせてもらいました。その時に幸運にも実際にホームステイ先のホストと英語でコミュニケーションをとりながら抜歯や歯をけずったり、詰め物をしたり、たくさんさせていただきました。僕の場合はたまたま臨床実習である程度経験させていただいていたことなので臆することなく向き合うことができ、とても幸運なことでした。

どの先生方も仰っていますが今、そしてこれが

ら数年間がこれからの人生を決める大切な時期です。今やらせていただいていること全てに感謝をしつつ。



クラス会（メキシコからの留学生 Gerardo、Maleny と共に）

